

「固形がん患者に対する化学療法後の HBV 再活性化リスク：

多施設共同後方視的観察研究」へのご協力をお願い

研究機関名 名古屋市立大学大学院医学研究科

名古屋市立大学病院

責任研究者 名古屋市立大学大学院 医学研究科 臨床薬剤学 教授

名古屋市立大学病院 薬剤部 薬剤部長 木村和哲

分担研究者 名古屋市立大学病院 薬剤部 化学療法係長 黒田純子

1. 研究の意義と目的

厚生労働省が 2014 年 1 月に策定した「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」において、「P D C A サイクルの確保」等が新要件として盛り込まれ、2014 年 10 月より「愛知県がん診療連携協議会 P D C A サイクル推進検討部会」の活動が開始されました。同時に部会では、愛知県のがん診療の均てん化を推進する上で、職種ごとの分科会を設置され、私たち薬剤師分科会の取り組みとして、がん化学療法後の B 型肝炎ウイルス (HBV) のリスクと対策をテーマとしました。これまでの同分科会の調査で、固形がんにおける HBV スクリーニング検査実施率が低いことが確認されています。

B 型肝炎の再活性化による肝炎は劇症化しやすく、死亡率が高いことが示されています。一方で、がん化学療法後の HBV 再活性化の報告の多くは造血器腫瘍例であり、固形がん患者におけるエビデンスは限られています。そこで、固形がん患者での再活性化の現状及び問題点を把握するために、上述した愛知県がん診療連携協議会 P D C A サイクル推進検討部会における薬剤師分科会プロジェクトとして、多施設共同後方視的観察研究を計画致しました。

2. 研究の方法

【対象】

当院にて固形がんに対するがん化学療法を受けられた患者様が対象となります。

【研究期間】

平成 28 年 9 月の倫理審査委員会承認後から

【方法】

当院にて固形がんに対するがん化学療法を受けられた患者様の臨床検査値を後方視的に調査し、HBV 再活性化の状況を調査致します。

【情報の保護】

調査情報は、名古屋市立大学病院薬剤部内において厳重に取り扱います。個人情報管理者及び個人情報管理補助者を置き、他のコンピュータから独立したコンピュータを使用し、外部記憶装置に記録させ、そのメディアは鍵をかけて厳重に保管いたします。本研究の成果は、患者様個人を特定できない形で関連学会及び学術論文として発表させていただく予定です。

本研究にご質問等ございましたら下記連絡先までお問い合わせください。ご自身の情報が研究に使用されることにご了承いただけない場合は研究対象といたしませんので、下記連絡先までお申し出ください。この場合も診療等、病院サービスにおいて皆様に不利益が生じることは決してございません。

〈問い合わせ先・連絡先〉

名古屋市立大学病院 薬剤部

氏名：黒田純子

TEL：052-851-5511 FAX：052-858-7402